

観音殿

観音殿(「観音殿」)は一般に銀閣として知られている建物です。足利義政(1436-1490 年)の命を受け東山山荘の一部として建設され、彼の没後、1490 年に完成しました。観音殿は銀閣寺に現存する当時から残る 2 つの建物のうちの一つで、国宝に指定されています。

銀閣寺は実際には銀色ではありません。この通称は、江戸時代初期(1603-1867 年)に義政の祖父・足利義満(1358-1408)が建てた金閣寺(金閣寺)と対照して付けられたという説があります。もう一つの説は、当初黒漆で覆われていた建物の二階の部分が、年月を経て漆が風化していくにつれ、次第に白っぽく変わっていったというものです。土産物店の近くには、おそらく 500 年前はこうであったであろうとされる、漆塗りの外観のモデルがあります。